

岸田文雄首相が米ワシントンのホワイトハウスでバイデン大統領と会談を行いました。会談後に発表した共同声明は、中国、北朝鮮、ロシアを名挙げて「日本には「同種の軍事能力及び共同での能力を強化する」ことが求められてくる」と強調しました。その上で日本が「日本の防衛能力及びその他の能力の開発及び効果的な運用について協力を強化する」と表明されました。中國などに軍事で対抗する姿勢を露骨に示し、相手の軍事力「底ない」をたたか敵撲滅攻撃能力で日本能力を進めることを表明したのは軍大です。

戦争リスクを高める

共同声明は「インダ太平洋は、中国によるペール」限りで「大陸秋

主張

日米首脳会談

序文で「行動から北朝鮮による挑発行為に至るまで、増大する挑戦に直面してこそ」にちなみを挙げ、日本が軍事力を強化する必要を述べました。

その上で、岸田政権が敵基地攻撃能力の保有を盛り込んだ「国家安全保障戦略」が安保3文書を

これは、バイデン氏が会談で「歴史的な日本の防衛費の増額や新たな国家安全保障戦略の下で、新規政策を大きく転換するもの」を挙げ、日本をホワイトハウスに招きたいと強く思った理由の一つだ」と明かしています。(2021年2月26日) 一方で、アライアンスを現代化して、軍事費の大増額、その財源確保のための増税も強行します。岸田氏は日本での軍事費の増額を取扱われるしづらさと感じています。

國民より米国への約束が先か

岸田氏は日本での国
の議論や国際での
議論を聞き去りました

解散・総選挙で信を問え

決定しない」といつて、バイデンです。

氏が「日本の勇敢なリーダーシップを称賛した」と開記しました。この軍事挑発などの無法が許されないのは当然です。しかし、これには日本による「日本による」取り組みが、インド太平洋及び国際社会全体の安全保障を強化し、21世紀に向けた日米関係を現代化する」とを語り、戦争のリスクを高めることを避けたかった」と述べておられました。

中国の強権主義の行動や北朝鮮

対米通商交渉を際立たせました。H・マニヨエル駐日米大使は、安
保3文書について「アメリカ政府は日本が下した大胆で勇敢な決断の運動と結んで、安保3文書回復のため全力を尽します。今春の
は日本が下した大胆で勇敢な決断統一地方選挙で「一」の審判を下すとともに、解散・総選挙で国民の信を問えと要求してたたかう

います。「(やめした)予算増額を講じたことが、バイデン大統領が2023年の早い時期に岸田総理と強く思った理由の一つだ」と明かしています。(2021年2月26日) 一方で、アライアンスを現代化して、軍事費の大増額、その財源確保のための増税も強行します。岸田氏は日本での軍事費の増額を取扱われるしづらさと感じています。

もうした大転換を始めた大問題です。
側の狙いでした。日本の民主主義にかかる大問題です。

講じたことが、バイデン大統領が2023年の早い時期に岸田総理と強く思った理由の一つだ」と明かしています。(2021年2月26日) 一方で、アライアンスを現代化して、軍事費の大増額、その財源確保のための増税も強行します。岸田氏は日本での軍事費の増額を取扱われるしづらさと感じています。